

## 1. 教育の責任

「現代社会を多面的・学際的に捉えるための情報収集・分析能力、社会課題の発見・解決に資する実践力とよりよい社会の構築に向けた構想力・行動力、社会の諸活動に主体的に参加する意志の育成」を目指すという現代社会学部の教育目標を踏まえ、エビデンスに基づいて人の心の理解を目指す心理学の理論と方法論の教育、およびそれらを用いた実習を通じて、日常の中にある様々な課題を発見し、それらを解決するための基礎力の育成を目指す。

## 2. 教育の理念

現代社会における課題・問題の多くには人が関与しており、人の心の理解を目指す学問である心理学の貢献できる部分は多いと考えられる。「幅広い知識を身に付け、これを活かして他者とともに問題の解決にあたる力を養成し、さらには学修の内容や活動の振り返り（リフレクション）により、豊かな人間性と肯定的自己概念および社会的責任を育む」という本学の教育目的を踏まえ、心理学に関する教育と実践を通して課題発見力と論理的思考力を養い、より良い社会を実現することのできる人材を育成することを目指している。

## 3. 教育の方法

課題発見力と論理的思考力を養うことを目的として、以下のような教育を実践している。

1 年生から履修することのできる「心理学概論」という授業を担当しており、心理学に初めて触れる学生を想定し、幅広いテーマを取り扱っている。その際、各テーマに対応する日常の事象を取り上げ、専門的な知識と日常を接続する工夫を行う。さらに、具体的な研究例を示し、そこで用いられた手続きや得られたデータについても、初学者にもわかりやすい形でできるだけ詳細に説明をするよう心掛けている。また、授業内に心理学実験や調査のデモを組み込み、得られたデータを即座にフィードバックし、過去の知見との異同について論じる。これらを通して、日常に潜む課題を発見し、その問題について論理的に考える力を養う。

「心理学実験 I/II」は演習の授業であり、過去に行われた心理学実験や調査を実際に経験し、そこで得られたデータを自らの手で分析し、レポートを作成する。これらの一連の過程は、物事を客観的にとらえ、論理的思考によってそれらを整理することで心の理解を目指すものであり、上記の課題発見力と論理的思考力の更なる向上を目標として、授業を行っている。

演習形式の授業では、学生の進捗を確認し、適宜、学生から意見を求めそれらに対応して内容を調整するという双方向型の授業を行っている。また、一般に、双方向型の授業が難しいとされる大人数を対象とする講義形式の授業では、「パパパコメント」という、共有している画面に学生がコメントを流すことを可能とするツールを用いることで、できる限り学生と相互にやり取りができる機会を増やしている。

## 4. 教育の成果

授業アンケートでは、演習形式・講義形式の別に関わらず、いずれの担当授業でも、学生から「課題発見力」と「論理的思考力」の項目について高い得点を得ている。したがって、概ね目標に沿った形で教育実践ができているものと考えられる。初学者を対象とした授業では、各授業終了時に受講者に意見や感想を書いてもらっているが、その内容にもポジティブなものが多い。

一方で、一部の学生からは「難しかった」や「よくわからなかった」というコメントもあがっている。また、教員相互で行う授業見学においても、他の教員から、やや難易度が高く感じたという指摘を受けた。初学者向けの同じ授業（心理学概論）内でも、経験を通して理解しやすい社会心理学のトピックよりも、抽象的な議論が多い認知心理学のトピックにおいてその傾向が強まり、トピックによるばらつきが大きい。受講生の興味・関心と難易度のバランスを調整し、より良い授業の実現に向けてさらなる努力が必要であると考えられる。

## 5. 改善への努力と今後の目標

初学者を対象とする講義形式の授業では、より多くの学生が心理学に興味を持つことができるよう、親しみやすいテーマ設定と体験を通じた学びの実現を目指す。一方で、資格の取得に関わる科目でもあるため、一定の水準を下回らないレベル設定を行う必要が

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：服部 陽介 作成日：2026年1月31日

あるため、両者のバランスをとっていくことが次年度の今後の課題となる。

演習形式の授業ではグループワークを多く取り入れる形に授業形式を変更し、学生が主体的に学ぶことのできる場面を大幅に増やした。その結果、クラス全体の課題に対する参加度が向上した。また、課題の途中で議論が停滞し、動きが止まってしまっている学生のグループを見つけ、様子を見ながら介入するようにした結果、学生間の議論も活発化したように感じる。結果として、今年度は、以前よりも授業途中でドロップアウトをしてしまう学生数が減少した。しかしながら、このような状況が今後も続く保証はなく、履修する学生次第で、状況は大きく変化する可能性がある。今後も、引き続き、きめ細かな配慮と対応を目指す必要があるだろう。複数のクラスを異なる教員が同時開講する科目であるため調整が必要となるが、教員間で相互に連携しながら、クラス間で大きな差が生じないよう対応することを心掛ける。

### 【添付資料】